

「僕らの音」

県立神戸高等学校長
新谷 浩一

○ 歌声が響く

威厳あるテッポウユリに続いて、華道部があらたに飾ってくれた生け花です。目にも鮮やかな緑と、その奥に控えめに佇むバラ。メッセージが添えてあります。『花材はアレカヤシ、エレンジュウム、バラです。ピンクのバラの花言葉である「上品さ」、「あたたかい心」を持って、私達も生活していきたいです』。



9月末から10月の始めにかけては、実に神戸高校らしい『上品』な秋でした。学年ごとに開催されるクラス対抗の合唱コンクール。その結果、上位となった2クラスずつが神戸市文化ホールで開かれる音楽祭の舞台に進むことができます。栄誉をめざしての練習ですね。朝な夕など、校舎内は歌声で溢れていました。そして幸い、コンクール前日も私は枚方市内で上品さに触れることができました。



第80回関西合唱コンクールの高等学校部門Bグループは選ばれた6校の合唱部のみがそのステージに立つことを許されます。本校合唱部も選ばれて参加していました。実に名誉なことです。能島先生がチケットを分けてくださったので、その輝かしい舞台を私も観客席で見せていただくことができました。結果として残念ながら全国大会出場は果たせなかったものの、胸に沁み入る素敵な合唱を聴かせてくれました。ありがとうございます。

翌日からは3日連続での合唱コンクール。それぞれのクラスの色が現れ、面白かったですね。最終的に音楽祭への出場を決めたのは1学年から5組、6組。2学年から4組、5組。3学年からは2組、3組でした。閉会前の文化委員長挨拶では「美しいハーモニーと良いチームワークは似ていると私は思います。ともに互いの音や思いを聴くことが何より大切だからです」との言葉がありました。気持ちのこもったいい言葉です。

もっとも印象に残ったのはやはり本校で長年歌い継がれてきた『サリマライズ』ですね。課題曲でしたから、ひとつの歌がクラスによってこれくらい違う表情を見せてくれるのか、ということをお教へいただきました。さらに初日、3学年が結果発表を待つ間、能島先生がサプライズ的に演出してくれた学年合唱での『サリマライズ』は実に素晴らしく、講堂に集まられた保護者の方々からも拍手喝采を浴びました。



ちなみに3年1組が歌ってくれたRADWINPSの『正解』は私の大好きな曲のひとつでもあります。かねてより高校生にうたってほしい歌だと思っていましたので、ひとり勝手に喜んでいました。

かくして迎えた音楽会。華やかなファンファーレのあと、私は呼びかけました。

「出演する皆さん。あなたの声を、あなたの音を奏でることで私たち聴衆の心をぐらぐらと、さんざん揺り動かしてください。感動させてください。そしてフィナーレで『サリマライズ』を全員で合唱し終えた瞬間、すべての神高生が音楽の余韻に、自分たちが奏でた音の余韻に浸っていることを心から願っています」と。
続けて、自治会長が堂々と音楽の持つ力の素晴らしさについて語ってくれたら、いざ開演です。





文化部のステージ発表はどれも素敵でしたが、特に印象に残ったシーンがふたつありました。まずは合唱部の男声コーラスメンバー登場時の会場からのどよめきですね。「ああ、今日も大久先生と一緒に歌ってくれるんだ…」と思ったのですが、あまりのどよめきに目を凝らすと、現役神高生の中にふたりの元神高生が紛れていました。能島先生は歌が本職。でも、岡田倫尚先生がかつて合唱部員であったとは知りませんでした。

もうひとつ印象に残ったのは管弦楽ステージでの山本先生の弾けっぷりですね。何度も振り向いては聴衆を煽ってくれる姿に、会場は大いに盛り上がりました。普段は物静かな先生のとても意外な一面でした。



また、選考を勝ち抜いた個人出演の4名の生徒も、音楽会に彩りを加えてくれました。特に最後に出演した平澤さんには、目を惹かれてしまいました。

24号の通信で書かせていただいた、ピアノコンクールでの入賞を報告してくれた生徒が、まさに平澤さんだったからです。あの時のほにかんだ様子とは一転して、強く鍵盤を叩く姿が胸を打ちました。私は時間さえ許せば授業や部活動などを覗かせてもらっています。当たり前のことですが、人生はひとつの物語です。そこに至るまでのストーリーを少しでも知った方が、ともに喜べるかな、なんて思っているからなのです。

さあ、音楽会は終盤に向かいます。合唱部、吹奏楽部、弦楽部、1年生音楽選択者による合同演奏『ハレルヤ』の後、合唱コンクールの覇者は3年2組と発表されました。沸き上がる歓声。さらに表彰の際、同窓会からはクリスタルのトロフィーの授与。歓声はいっそう高まります。



エンディングの全員合唱の『サリマライズ』に至るまで、神高生の音を響かせましたね。自治会メンバーをはじめとする生徒全員の努力に拍手、開場1時間以上も前から並んでくださった保護者の方々に感謝、そしてご観覧いただき、「いい音楽会でした」とのお言葉をくださった同窓会の尾野会長と太田様にひたすら感謝の1日。

第一グラウンドの西門として、長年、神高生の姿を見守り続けている『おおとり門』。音楽会の翌日、その脇で背筋を伸ばしていたのは赤と白の彼岸花でした。僕らの音とともに、かくして秋は深まっていきます。日々、新たな神戸高校の歴史を1枚1枚加えながら。

